

道東地区教会連合会機関誌



# 道東 39 こ う ほ う 光 報



'DÔTÔUKÔHÔ', Newsletter of KONKOUKYOU East Hokkaido reg., No. 39 Oct., 2017

## 巻頭言 祖父に重なる自分の願い

滝上教会 清水 優

六十三年の自分の半生を振り返ると、思い起こす度赤面することは多々あるが誇るものは何一つない。少年時代を振り返っても、すべてにおいて平凡な子供だった気がする。

三人兄弟の末っ子として極平凡なサラリーマン家庭に生まれた自分は、同じ町内にあった母方祖父母の家が大好きな子供であった。学校が休みの時は殆ど泊まりに行っていたし、夏冬の休み期間中は殆ど祖父母の家にいた記憶がある。

○ 祖父は岡山県美作みまさかの人。大正五年、既に滝上金光開拓団

として入植し、農場経営に信仰の先達にと大活躍されていた岡本政道師の求めにより、金光農場の会計等事務の責任者として来滝した。

○ 温厚実直な祖父は、その後教会の責任役員などを長く務め八十三歳で帰幽した。しかし、その祖父には終生癒えることのない辛い思い出があった。

昭和八年、当時十歳の長男、寿を家に残し祖父は祖母、母の姉、母と共に町へ出かけた。寿少年は親や妹たちが不在の家で、普段父が行っている通りに極当たり前に神前へ向かい父の作法通り蠟燭に灯を

点けた。が、何かの弾みで他所よそに燃え移ってしまった。祖父母が火災に気付き戻った時には既に自宅は半焼、そして変わり果てた長男寿が在ったという。

○ 長男を一人家に残した後悔、息子に伝えた自宅での神行が結果として命を奪ってしまったという葛藤。晩年、多くを語らなかつた祖父であるが、自宅神前の我が子の遺影の前で静かに祈念していた姿は今も鮮明に記憶に残っている。

○ 昭和四十三年一月、滝上教会初代教会長であり元の金光開拓団団長、初代滝上

町名誉町民であった岡本政道師が帰幽された。その後、祖父は教会に残された諸々の問題を片付けるため責任役員として尽力した。

前記の如く取り返しのない辛い思いを乗り越え、

五十年以上の長きにわたり信心を重ねてきた祖父であった。その祖父は、資力があつたわけではないので経済的に教会を支える大きな力にはなれなかったであろうが、会計を含め事務方を一手に引き受けていた。

○

昭和四十六年一月、その祖父が帰幽した。残念ながら当時の兼務教会長の都合により金光教で葬儀を出すことができず、神式の葬儀となった。母も伯母も「金

光さんを祀り、岡本教会(當時はそんな呼び方をしていた)を長年支えてきたのに・・・」と落胆していたのを今も鮮明に記憶している。

同様のことが何件かあった。今日の滝上教会の教徒家族は数件、教勢は衰退しきってしまった。衰退の要因は滝上の急激な過疎化もあるだろうが、そんな理由もあるのかもしれない。

○

同じ岡山県をご本部とする黒住教は滝上に教会所を持ち、専任教師が常駐し今だ多くの信奉者がいる。金光教滝上教会は開教後、初代教会長・岡本政道先生が二年のみ常駐されたにすぎない。その後は今日まで兼

務となっている。

どこの宗教、宗派においても兼務教会、住職不在で教勢を維持、拡大できたとの話は聞いたことがない。

無論、浅学な自分は他宗に付いて学んでいるわけではないが、天下の名教と讃えられる我が金光教が、教団においても特筆すべき背景を以って布教された滝上でこの現状はあまりに淋しいと思わざるを得ない。

自分たちの代で信仰の灯を消してしまうことだけは何としても避けたいものと思っている。そのために何をすべきなのかいろいろと思いを巡らせている昨今でもある。

○

今日、自分は尊敬すべき

教師の指導を受け、信頼のおける信心仲間に関まれ何一つ不自由のない信仰生活を送っている。

ささやかな夢として、長期の休暇を得てご本部、関係教会参拝、そして金光図書館に籠り教団史などの研究に没頭してみたいと願っている。

学べば学ぶほど、知れば知るほど奥は深く、気持ちが高揚する。そんな自分はまだ求道の入り口の手前に立ったに過ぎない。自己満足であることは重々承知であるが、こんな信仰、信心があっても良いのではと一人思っている。自分に本教を繋いだ祖父は、こんな孫をどう思うか知りたいものである。

## 教会掲示板

教会からあれこれ

## 帯広教会

帯広市東四条南八丁目四番地  
TEL 〇一五五―三三―六八三五  
FAX 〇一五五―三三―六八三五

### 布教九十五年を迎えて

帯広の初霜は9月28日でした。9月の観測は2001年9月23日以来、十六年ぶりとなります。旭岳の初冠雪も昨年より一日遅いようです。平地でも紅葉が始まっています。3ヶ月前の7月12日から4日間、は30度以上で15日は37度になり7月で日本一暑い日になりました。しかし、今では朝晩に石油ストーブをつけるようになりました。このようなように天地の働きが大きく変わります。大きく変わ

ることでもまた十勝の農作物は多くの恵みを頂くことができることはありがたいこととであります。

昨年、台風の影響により杏の木が倒れたという話をいたしました。今年はその影響なのか分かりませんが、杏の実と銀杏の実もなっておりません。例年の大祭には杏漬け、銀杏ご飯を用意できましたが、残念なことです。実の出来ない年もあり出来る年もあります。天地の大恩に感謝しつつ日々おかげを蒙ってまいりたいと存じます。

今年、帯広教会初代教会長田中福太郎大人が難病より回復のおかげを蒙り三重県関教会二代教会長・松澤四太郎先生の御取次を頂き、大正9年(1920年)

函館初代教会長矢代幸次郎先生の手続きをもって大正11年(1922年)6月に帯広の地に金光大神の信心を伝えたいと金光教の旗を揚げたことに始まります。

爾来、初代の御霊徳、多くの御霊様、信奉者に祈られお世話を頂いての今日であります。誠にありがたいことです。それぞれ十年毎の記念祭を仕え、日々おかげを蒙って今年帯広教会布教九十五年を迎えました。

改めて今まで信心と御取次によつて蒙ってきたおかげにお礼を申し上げ、家族一人一人に信心による喜びを伝え「神人の道」を現してまいりたいと祈念するところです。

布教九十五年をというこ  
とで記念事業として5年ご

とに教会屋根のペンキ塗りを信奉者と共に行いました。業者より上手くはありませんがきれいに出来上がりしました。心配された事故もなくおかげを蒙りましたこと誠にありがたいことです。

5年ごとにペンキ塗りをしますが年齢も同時に5才増えます。体力も衰え高いところも恐怖になってまいります。最初に修理補修を施し、2階の屋根、1階広前部分、玄関、手洗いの屋根と順番に3日間かけて行いました。やはりペンキ塗りをすると屋根も長持ちし、冬、屋根の雪はたまることなく滑り落ちます。どうなるかわかりませんが布教100年の時にもペンキ塗りをしたいと思います？

(田中)

## 北見教会

北見市寿町三丁目五番一号  
TEL 〇一五七—二四—七四七四  
FAX 〇一五七—二四—七四七四

日ごとに深まる秋の日々に  
何思う？

言葉というものは、人と  
人とが暮らしているものに  
とつて必要不可欠なもので、  
最も大切なものでもあるけ  
れど、人に話すということ  
になるととても難しいもの  
になります。

本心を吐露する、本音を  
言うときよく言いますが、実  
はそれを言葉に出して言う  
と、それはすでに本心では  
なくなります。なぜなら、  
言葉にするためには頭で考  
えてから言うからで、理性  
や計算がそこに入っている  
からです。

つまり、かなり厳しい見  
方をする、どんなにお礼  
お詫び、お願いをしたとこ  
ろで、それを言葉にだすと、  
本心を表しているというこ  
とにはなくなるのではない  
か、ただ自分の思いを語っ  
ているということなのでは  
ないかと思うのです。

結婚式の挨拶などで、  
僭越<sup>せんごつ</sup>ですが、私のような者  
がと言いながら長々としや  
べる、何かの役職になどに  
推された時に、まことに至  
らぬ者、行き届かぬ者とい  
いながら引き受けるなど、  
もし本当にそう思うならや  
らなければいいのでは？

それらはたいいてい慣例に  
従っていつているだけのこ  
とであつて、多少は本当で  
あつてもやはり本心とはい  
えない、では、本心とはど

ういうものなのでしょうか。  
本心の玉を磨くの本心と  
は何か、人間関係において  
の言葉の難しさなどを考え  
ていたらきりがなくなりま  
したのでここまで。

(矢代)

## 釧路教会

釧路市宮本一丁目五番二二号  
TEL 〇一五四—四一—三五一  
FAX 〇一五四—四一—三六一

昨年8月の台風の影響で  
ある。釧路の殆どの地域で、  
昨年の台風のおかげで落葉  
樹の木の葉が落ちた。すぐ  
新芽が出て若葉がチラホラ、  
釧路の殆どの地域で桜の狂  
い咲きがあつたようだ。若  
葉は、紅葉の前に枯れて散つ  
た。

今年の桜は、例年より花

が少なく、いわゆる綺麗な  
桜は見られなかった。若葉  
は、ちよつと変わつていた。  
木の北側部分に若葉が茂つ  
ていた。教会前庭の木々は、  
教会の窓から見ると青葉が  
茂つていたが、ハツと気が  
付くと、木の葉は秋に落葉  
し、冬に木枯らしの枝が揺  
れるように、上の部分は木  
が枝のままなのだ。

つまり、木の南側の枝が  
みな枯れてしまっているの  
だ。

昨年8月、4回もの台風  
が襲つたのが原因らしい。  
つまり、潮風だ。釧路に直  
接台風が来たことはない。  
それが、昨年は、太平洋を  
北上して、直接釧路を直撃  
している。

太平洋を北上する台風は、  
つまり潮風なのだ。8月上

旬、間を置かずに3本の台風が北海道東海岸を襲っている。極め付けは8月末、東北・岩手・岩泉付近に上陸し、道南をかすって温帯性低気圧になった台風は、道東海岸にも風雨がすごかった。

太平洋から内陸に吹く風は、南風で、潮風になる。木は潮風であお煽られても、葉はしお萎れるが、すぐには落葉しない。だから、木の北側は南側の萎れた葉に守られ、ダメージが少なかったのだ。

それで、木々の南側は、枝そのものが立ち枯れをし、北側は葉が茂っている。

教会前庭の紅葉は、大枝が1本折れたが、多くの枝々は健在だが、枝と枝の間が開き、これまでのような半円

形の形を無いしていない。それでも葉のあちこちが紅葉し始めている。天地自然の働きのごすこ凄さを思う。

(江郷)

## 網走教会

網走市北四条西一丁目六番地  
TEL 〇一五二一四三―三九五四  
FAX 〇一五二一四三―三九五四

## 滝上教会

紋別郡滝上町元町士別通り

今年、春の御大祭に併せて当教会四代教会長高松清正先生の三十五年祭をお仕えし、網走教会長としての三十二年間の御用と今なお霊神様としてお働きくださっていることに感謝の祈りを捧げました。

追悼教話を釧路教会長江郷繁樹先生にお願いし、高

松先生のお人柄やご信心の一端をお話し下さいました。

当時、高松先生は、御大祭の執行時間が間近であっても、ご信者さんからのお供えがあれば、せっかく遠くから持って見えたんだからと、その思いを大切になさって、一度お供えしていた野菜を下げ、新たな野菜を加えて盛り付けるなどなさっていました。そういうことで、当時の網走教会は大祭執行時間が二、三十分遅れるのが当たり前だったようです。

今の時代では考えられませんが。時間通りに始めないと大騒ぎです。昔は今よりも時間がゆつくりと流れていて、人々の心にも余裕があったのではないでしょう。より豊かな人生をとの

願いで開発された機器も、あまりに便利になりすぎた現代では、皮肉なことに人々は返って忙しくなっていました。その一番が車と携帯電話の普及のように思っています。どこかに出かけていて、常に仕事を追っかけてくるという状態のように思っています。

話がずれましたが、そのような高松先生に当時、年若い江郷先生がみ教えをもとにご忠告なさっているんです。驚きなのはそのことを素直に受け入れられた高松先生のご姿勢です。それから時間は経つかりに御大祭をお仕えになるようになったということでした。

誰でも自分がよかれと思いい、正しいとも思っていることを忠告されれば、そ

うそう素直に受け入れることは難しいことのように思えます。しかも相手が教師になりたての年の離れた目下の者であればなおのこと。いくらそれが正論であつても聞く耳など持てないように思えます。自分が信心でしていること、若造が何を言う、いらぬ世話だとなつても不思議ではないでしょう。

しかしそうしなかった高松先生、そのどこまでも謙虚で実意なご姿勢、ご信心は、御取次の上にも現されています。

あるご信者さんは商売の上で独り立ちをなさったとき、お手紙と共に幾ばくかのお餞別を高松先生から頂いたそうです。お手紙とお餞別を自宅の神前にお供え

し、商売で行き詰まったり、辛い時など、どれほど高松先生の御心に支えられたかわからないということでした。またあるご婦人は、嫁ぐときに高松先生より頂いたお手紙を五十年来、今もって大事にしているとのことでした。高松先生の深い祈りがそのお手紙やお餞別に込められていたことが分かります。

今、改めて高松先生のご功績を思うときに、後をお受けしている私として、先生の神様にも人にも謙虚で実意な信心というものをしっかりと学ばせて頂き、御用の上に現していかねばと強く願うのでした。

(菊川)

## 十勝教会

池田町旭町一丁目九番地二二  
TEL 〇一五五七二一三三二  
FAX 〇一五五七二一四二二

「ら抜き言葉」を取り上げたある四コマまんがの一節。

生徒が先生に

『食・べ・れる』じゃなくて『食・べ・ら・れる』が正しいんですよ」

と聞くと先生は

「わざわざ『正しい』と言わなければならぬのは『た・い・して・正・し・く・な・い』からね。」と答える。

確かに文法としては「食べられる」が正しい用法です。なかには「正しい言葉は、正しい使い方は」と指摘しないと気が済まない人もいます。それは悪いことではありません。しかし、私た

ちは普段の会話で「ら抜き言葉」を普通に使い、ちゃんと意味も通じています。「ら抜き言葉」を使うのが悪いことでもありません。

今の世の中、特にネット社会においては自らの「正しさ」を他人に押しつけ、自分の主張にあわないものを否定し、反対のものは封じようという風潮が見て取れます。

確かに自分が常識だと思っていること、自分が与する組織や社会の常識と違うものに出会うと困惑します。自分が否定されているようにも思えます。だから逆に相手否定するか、訂正させるか、無視するか……。でも実際は自分にとって「正しくない」とされたものも正しかったりします。

金光教という信仰で結ば

私たちにとって「正しいもの」とはいったいなんでしょう。なかなか難しいところですが、少なくとも一方的に他を否定せず、自分と違う考えの人の立ち行きも願える。それだけは確かなように思います。

### 追伸

同じく別の巻でのその先生の一言

「すべてわかっていると思っている人には、何がわかっていないのかがわかりません。」

※「のちゃん」より

(玉置)

## 行事報告

### ▼平成二十九年度 道東地区教会連合会

#### 交流会

・日時 平成二十九年七月八日(土)  
十四時～十九時

・会場 滝上教会、滝上町内

・参加者 30名

・内容 滝上金光開拓団ゆかりの地めぐり

教会境内で懇親会

### ▼平成二十九年度 研修会

#### 「神人あいよかけよの生活運動」

道東地区集会

・日時 平成二十九年七月九日(日)

九時～十二時

・会場 滝上教会、童話村交流センター

・参加者 26名

・テーマ

「祈りあう心 助けあう心 神心」

・内容 ビデオ学習と懇談会

「北海道布教百年記念ビデオ」  
(北海道教師会作製)

石巻教会長・井上直文先生「東日本大震での避難生活について」(北海道教務センター青少年育成室作製)

前日の交流会を通し学んだ滝上開拓当時の様子、東日本大震災で被災された人々の避難所生活、明治期にそれぞれ遠く離れながらも助け合い布教活動を行った先人達の姿を通し、「助け合う」ということについて学びました。

### ▼教区少年少女キャンプ「みどりのひろば」

(教務センター共催)

・日時 平成二十九年八月四日(金)

～六日(日)

・会場 小平町・望洋台キャンプ場

・テーマ

「つくろう つかおう たべよう」

・参加者 39名

(道東地区から小学生5名、引率者1名)

・内容

本部から送ってもらった孟宗竹を使っての食器作り、コンクリートブロックを

使った調理用カマド作り、ピザ・手打ちうどん作り、キャンプファイヤーなど

▼平成二十九年度役員会

・日時 平成二十九年九月二十四日

十時三十分～十五時

・会場 北見教会

・出席者 9名 ・内容

平成二十九年度行事、会計について。

次年度活動計画案、予算案について。

役員懇談

平成29年度  
道東地区教会  
秋の大祭日程

|      |           |
|------|-----------|
| 釧路教会 | 10月22日(日) |
| 北見教会 | 11月 3日(祝) |
| 十勝教会 | 11月19日(日) |
| 帯広教会 | 11月 5日(日) |
| 網走教会 | 10月29日(日) |
| 滝上教会 | 10月15日(日) |

(予定)

道東地区教会 平成30年度 大祭日程(案)

|      | 春            | 秋             |
|------|--------------|---------------|
| 釧路教会 | 5月27日(日) 11時 | 10月21日(日) 11時 |
| 北見教会 | 5月 3日(祝) 11時 | 11月 3日(祝) 11時 |
| 十勝教会 | 4月15日(日) 11時 | 11月18日(日) 11時 |
| 帯広教会 | 4月22日(日) 11時 | 11月 4日(日) 11時 |
| 網走教会 | 5月20日(日) 11時 | 10月28日(日) 11時 |
| 滝上教会 | 4月28日(土) 11時 | 11月11日(日) 11時 |

※この日程は9月24日現在のものです。

※日程は変更になる場合があります。

(予定)

平成30年度  
道東地区教会連合会総会

- ・日時 平成30年3月25日
- ・会場 十勝教会
- ・対象者 連合会役員  
各教会委員



道東地区教会連合会ホームページ  
(PC用)

<http://kontoka.webcrow.jp/doto>